

凡事徹底・活力・環境

# 五小だより

<http://5s.hyama.andteacher.jp>

令和 6年 5月 31日

No.3

東大和市立第五小学校

TEL (042) 562-1981

FAX (042) 590-7022

## ～エミール～

校長 平松 新太郎

五小は 6月10日(月)～23日(日)が読書旬間です。読書旬間を迎えるにあたり、今回は本の紹介です。私が紹介するのは、ルソー著『エミール』(出版:1762年5月フランス/オランダ)です。この本の出版当時、日本は江戸時代中期、田沼意次が活躍した頃でした。250年以上前に出版された古典ともいえるこの本ですが、現代の教育に最も大きな影響を与えた名著とされています。私がこの本を最初に読んだのは二十歳の頃でしたが、今回、五小だよりを書くにあたり、『エミール』上中下巻3冊を買い直し、改めて読みました。

『エミール』はルソーの考える理想的な教育を書いた本です。

キーワードは、「自由な主体」です。

ルソーは「自由な主体」を次の2つと考えました。

- ① 社会的な評価のみから自分を測るのではなく、自分を測る基準を自分の中にもっていること
- ② 民主的な社会の一員として一緒にルールを作り自治をしていくことのできる公共性を備えていること

この「①自分のため」と「②公共のため」という、折り合いのつきにくい2つを両立する主体こそ、「自由な主体」であり、それを育てるの「教育論・人間論」が「エミール」です。

古典がなぜ現代まで残ってきたかということ、「人間とはどういう存在なのか、だとすると教育とは」といったことを考え抜いた本だからです。もちろん、国も時代も異なるため、現代の教育にそのまま当てはまらない部分もあります。また、ルソーの考え自体に対する批判もあります。しかし、私には改めて大切だと思った部分がたくさんありました。

例えば、「大事なのは子供を見ることだ」という言葉です。子供たちは家庭で見せる姿と学校で見せる姿が、必ずしも同じとは限りません。「家庭ではこんなことを言い、こんな様子だ。」「学校ではこんなことを言い、こんな様子だ。」それがまったく異なることも少なくありません。家庭や学校以外での状況も含めて、「事実を併せて本来の子供の姿を共有する」そんな大切さにも繋がる、と思いながら読みました。

実際、ルソーが描く子供の描写はち密です。私も経験や思い込みにとらわれず、これからも多くの方々との情報を共有することで、子供の真の姿を理解していきたいと思いました。